

一般社団法人日本歯科医学会連合
医療職連携員会フォーラム
プログラム・抄録集

「歯科衛生士のバージョンアップ」
～認定歯科衛生士の資格を活かす～

オンライン(ライブ):
令和 5 (2023)年 11 月 19 日 (日) 13:00~15:00

オンデマンド配信: 令和 5 (2023)年 11 月 21 日 (火)~令和 6 (2024)年 1 月 5 日(金)

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F

一般社団法人 日本歯科医学会連合

Fax: 03-3263-7761 E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp



「歯科衛生士のバージョンアップ」

～認定歯科衛生士の資格を活かす～

オンライン(ライブ)開催日時: 令和5(2023)年11月19日(日)13:00～15:00

オンデマンド配信: 令和5(2023)年11月21日(火)～令和6(2024)年1月5日(金)

【プログラム】

	司会進行	医療職連携委員会 委員長 専門歯科衛生士制度検討WG会議委員	山本松男 吉田幸恵
13:00	開会		
	開会の辞	医療職連携委員会	委員長 山本松男
	挨拶	日本歯科医学会連合	理事長 住友雅人
	フォーラムの趣旨説明	専門歯科衛生士制度検討WG	会議委員 吉田幸恵
13:10～	講演	(座長)医療職連携委員会	副委員長 吉田直美
1.	日本歯科衛生士会認定歯科衛生士(糖尿病予防指導)		
	林 糸津香 一般社団法人和歌山県歯科衛生士会		
2.	日本歯科衛生士会認定歯科衛生士(医科歯科連携・口腔機能管理)		
	中山 良子 一般社団法人岡山県歯科衛生士会		
3.	日本障害者歯科学会認定歯科衛生士		
	石井 里加子 オーラルヘルスサポート歯科 すみだ		
4.	日本歯周病学会認定歯科衛生士		
	荒木 美穂 朝日大学歯科衛生士専門学校		
5.	日本歯科麻酔学会認定歯科衛生士		
	西村 三美 東邦大学医療センター大橋病院		
6.	日本歯科麻酔学会歯科麻酔専門医		
	立浪 康晴 医療法人社団星陵会たちなみ歯科口腔外科クリニック		
14:40～	討論	医療職連携委員会	副委員長 吉田直美
	閉会の辞	医療職連携委員会	委員長 山本松男
15:00	閉会		

医療職連携委員会フォーラム2023

歯科衛生士のバージョンアップ ～認定歯科衛生士の資格を活かす～

開催趣旨

一般社団法人日本歯科医学会連合医療職連携委員会では、広告可能な専門資格制度の確立とさらなる普及を目的に、公益社団法人日本歯科衛生士会、一般社団法人日本歯科技工学会の活動を支援する一環として2022年より「医療職連携委員会フォーラム」を実施しております。少子高齢化が深刻化し、疾病構造が変化している現代社会のニーズに対応するため、歯科医療職間・医科歯科連携をはじめとする関係職種間の連携が望まれており、高い専門性を有する歯科衛生士、歯科技工士が求められています。

歯科衛生士につきましても、資質向上だけではなく、社会的認知度を高め質の保証をするためには、広告可能な専門資格制度の確立が目指すべきところです。今回のフォーラムは、そのための第一歩として、「歯科衛生士の認定資格取得者による経験談と共働者である歯科医師の声」を聴く企画としました。

本フォーラムを通じて、歯科衛生士の皆様が専門資格に対する理解を深め、その取得を目指して積極的な気持ちになることを期待しております。

一般社団法人 日本歯科医学会連合
理事長 住友雅人
理事 田村文誉
医療職連携委員会 山本松男
吉田直美
池田正臣
岡田明子
金久弥生
下江宰司
滝口 尚

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（糖尿病予防指導）について

林 糸津香

一般社団法人 和歌山県歯科衛生士会 副会長
宇佐美歯科



抄 録

1996年に歯科衛生士となってから、開業歯科医院に勤務、歯科衛生士養成学校教員、歯科衛生士会会務運営に携わる中で「糖尿病と歯周病」は、切り離せない深い関係であることを日々痛感し、2014年に和歌山地域糖尿病療養指導士を取得した。

2017年に日本歯科衛生士会糖尿病予防指導認定制度が発足し、徳島大学の松山教授をはじめとする諸先生方の講習を受け、認定を取得することで知識の整理が効率化され、歯周病治療を通じて患者さんの糖尿病発症予防や、糖尿病重症化予防に自信を持って努められるようになった。

和歌山県歯科衛生士会の活動としては、「糖尿病と歯周病の関連性」についての研修会開催や認定制度の周知等に関わってきた。また、県民には「糖尿病予防とお口の健康」に関する普及啓発活動も行ってきた。

今回、日本歯科衛生士会糖尿病予防指導認定制度の概要や取得条件ならびに勤務先歯科医院および和歌山県歯科衛生士会で行ってきた活動について紹介する。

略 歴

学 歴

和歌山県歯科衛生士専門学校卒業

職 歴

前田歯科クリニック 歯科衛生士

和歌山県歯科衛生士専門学校 専任教員

宇佐美歯科 歯科衛生士 2012年より現職

2017年より一般社団法人和歌山県歯科衛生士会 副会長

取得認定

和歌山地域糖尿病療養指導士（WLCDE）

日本歯科衛生士会糖尿病予防指導認定歯科衛生士

日本歯科衛生士会生活習慣病予防認定歯科衛生士

日本歯科衛生士会研修指導者・臨床実地指導者認定歯科衛生士

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（医科歯科連携・口腔機能管理）について

中山 良子

一般社団法人 岡山県歯科衛生士会



抄 録

社会的状況の急速な変化とニーズの多様化に対する歯科保健医療の拡充は急務である。我々歯科衛生士も医療の一端を担う専門職として、卒後から生涯を通じた知識・技能の習得のための学習・研鑽を行うことは社会的責務である。しかしながら、歯科衛生士の卒後の研修プログラムについては定まっておらず、自身のモチベーションに委ねられているのが実情である。そのような状況で日本歯科衛生士会は、一定の歯科衛生業務経験を有する者を対象に、医療連携、多職種連携に対応した高度・総合的な実務実践、指導技術の習得を目的とした認定制度を設け、卒後の教育支援を行っている。中でも医科歯科連携・口腔機能管理は、現在自身が勤務する急性期病院においては必須であると感じ取得に至った。しかしながら、実際に取得までの過程で、必ずしも急性期病院のみで活用するための認定資格ではなく、地域の一般歯科診療所で行う歯科医療から全身疾患の予防と治療、生活に支援が必要となる介護現場をつなぐ、まさに現代のニーズに即した認定資格であると感じるものであった。本フォーラムでは、自身の認定取得までの過程と、現在行っている急性期疾患加療中の病態に応じた対応や退院後の生活へつなげる口腔健康管理の取り組みを紹介する。ご視聴いただく皆様の歯科衛生士力がバージョンアップする一助となることを期待する。

略 歴

- 2003年3月 ベル歯科衛生専門学校（現朝日医療大学校歯科衛生科）卒業
- 2003年4月～ 2005年12月 医療法人津高台グリーン歯科
- 2006年3月～ 2006年12月 特定医療法人万成病院
- 2007年3月～ 2011年 3月 医療法人青木内科小児科医院あいの里クリニック・歯科
- 2011年4月～ 2018年 3月 鳥取市立病院
- 2018年4月～ 地方独立行政法人岡山市立総合医療センター岡山市立市民病院

所属学会・研究会

日本歯科衛生士会

日本摂食嚥下リハビリテーション学会

日本老年歯科医学会

日本老年学会

日本臨床栄養代謝学会

病院歯科介護研究会

認定資格

認定歯科衛生士【認定分野A】医科歯科連携・口腔機能管理【認定分野B】老年歯科

【認定分野C】研修指導者・臨床実地指導者

日本摂食嚥下リハビリテーション認定士

認知症ケア専門士

役職

一般社団法人岡山県歯科衛生士会理事

日本老年歯科医学会岡山支部理事

病院歯科介護研究会理事

朝日医療大学校学校関係者評価委員

歯科衛生士のバージョンアップ

～ 認定歯科衛生士の資格を活かす ～

石井 里加子

日本障害者歯科学会 認定歯科衛生士

オーラルヘルスサポート歯科すみだ



抄 録

公益社団法人日本障害者歯科学会（以下、本学会）では、障害者歯科医療を提供する専門的な知識と臨床経験を有する歯科衛生士を養成し、歯科医療の立場から障害者の社会生活や日常生活を支援し、社会福祉の向上と歯科衛生士の発展に寄与することを目的に、2008年に認定歯科衛生士審査制度を発足しました。障害者歯科分野の「認定歯科衛生士」は、本学会が審査を行い、公益社団法人日本歯科衛生士会が「認定分野B：障害者歯科」として認定しています。更に、認定歯科衛生士として活動・スキルアップ後に目指せる「指導歯科衛生士」については、本学会が審査、認定を行っています。2023年2月迄に410名の認定歯科衛生士と89名の指導歯科衛生士が誕生し、その専門性を活かし全国で活躍しています。

長年、障害者専門の口腔保健センターに勤務していた私は、当然のように認定歯科衛生士・指導歯科衛生士を取得し、積極的に人材育成や障害者歯科の普及・啓発に取り組んでまいりました。しかし、大きな組織を離れ、見知らぬ土地で新たな職場環境（教育現場）に就いた時、フリーランスとして複数の一般歯科診療所に勤務した時、改めて認定歯科衛生士制度ならびに障害者歯科分野の専門性の意義について見つめ直すことができました。今回は、自身の経験も交えながら障害者歯科における認定歯科衛生士制度の意義について述べたいと思います。

学 歴

- 1985年 日本医学院歯科衛生士専門学校 卒業
- 2007年 放送大学教養学部 卒業
- 2012年 新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程(歯学) 修了

職 歴

- 1985年 一般歯科診療所 勤務
- 1986年 日本医学院歯科衛生士専門学校 勤務
- 1986年 東京都立心身障害者口腔保健センター 勤務
- 1999年 東京都立心身障害者口腔保健センター 歯科衛生士主査
- 2016年 九州看護福祉大学 看護福祉学部 口腔保健学科 准教授

2017年 九州看護福祉大学 看護福祉学部 口腔保健学科 教授

2021年 九州看護福祉大学 看護福祉学部 口腔保健学科 退職

2021年 フリーランスにて複数の歯科医院に勤務

2023年 オーラルヘルスサポート歯科すみだ 勤務

認定・学会活動

日本障害者歯科学会 指導歯科衛生士

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（障害者歯科），（摂食・嚥下リハビリテーション）

日本歯周病学会 認定歯科衛生士

臨床歯科麻酔認定歯科衛生士

2004年～ 日本障害者歯科学会 代議員

2008年～ 日本障害者歯科学会 理事

2022年～ 日本障害者歯科学会 認定歯科衛生士審査委員会 委員長，研修委員会 委員

特定非営利活動法人 日本歯周病学会における認定歯科衛生士制度について

荒木 美穂

特定非営利活動法人 日本歯周病学会 歯科衛生士関連委員会委員

朝日大学歯科衛生士専門学校 教務主任



抄 録

日本歯周病学会（以下本会）では、2005年に認定歯科衛生士制度が発足し、現在までに1,366名の認定歯科衛生士が誕生している。日本では、健康日本21および健康増進法に「歯の健康」が位置付けられ、80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合が50%を超えた。しかし4mm以上の歯周ポケットを有する者は、20～84歳の各年齢層で約30%を占め、65歳～69歳の年齢層では約60%になり、未だ歯周病の予防と治療が広く国民に実施されているとは言い難い状況である。こうした背景により、本会では歯周病に対して、的確かつ効率的に対応し、かつ長期間にわたり国民の健康維持に貢献することを目的として「認定歯科衛生士制度」を発足させた。その結果、良質な歯科医療を提供するために専門性を高め、そのキャリア形成に努力する歯科衛生士は年々増加している。本講演では、本会認定歯科衛生士制度取得の具定例を紹介するとともに、その役割と重要性などを改めて考察し、より一層、認定歯科衛生士取得への意欲を高めていただければ、と考えている。

略 歴

学 歴

- 1989年 朝日大学歯科衛生士専門学校卒業
- 2007年 日本福祉大学経済学部経営開発学科卒業
- 2019年 昭和大学大学院保健医療学研究科修了

職 歴

- 1989年 医療法人至誠会二村医院勤務
- 1994年 朝日大学歯科衛生士専門学校勤務 現在に至る

学会活動

- 日本歯周病学会（評議員、歯科衛生士関連委員会委員）
- 日本歯科衛生教育学会（理事）
- 日本歯科衛生学会（生活習慣病予防認定）

一般社団法人 日本歯科麻酔学会認定歯科衛生士について ～資格活用の可能性～

西村 三美

東邦大学医療センター大橋病院 麻酔科術前センター



抄 録

一般社団法人日本歯科麻酔学会によって2015年に認定された「認定歯科衛生士」は、歯科医療の安全性向上を目指し、歯科診療における全身管理に関連する領域での知識と技能を備えた歯科衛生士の育成を目的としています。

現代において、高齢者、有病者、在宅患者の増加に伴い、歯科治療における全身麻酔や鎮静、有病者への歯科治療、全身管理、緊急時の救急処置などが重要性を増しています。そのため、歯科衛生士が認定歯科衛生士の資格を取得し、これらの知識と技能を習得することが求められています。

本講演では、認定歯科衛生士資格の取得条件、活動の実例、取得後の利点などについて説明し、歯科治療における麻酔、全身管理、救急処置などの知識とスキルを向上させるため、積極的な自己研鑽を行う歯科衛生士に資格取得への意欲を高めていただければと考えています。

また、これまでの認定者数や主な勤務状況を紹介し、認定歯科衛生士の役割と将来についても触れられればと思います。

略 歴

学 歴

横浜歯科技術専門学校歯科衛生士科卒業

東京福祉大学社会福祉学科卒業

筑波大学人間総合科学研究科生涯発達専攻科卒業（修士課程）

職 歴

開業医勤務

狛江市休日歯科応急診療所

文京区保健サービスセンター歯科室

東京医学技術専門学校教務課

横浜市歯科保健医療センター

東邦大学医療センター大橋病院麻酔科術前センター

所属学会

日本歯科麻酔学会（認定歯科衛生士）

日本障害者歯科学会（認定歯科衛生士・指導衛生士）

日本老年歯科学会 ほか

2040年を見据えた歯科医療体制「地域支援型多機能歯科診療所構想」における 認定歯科衛生士の活躍の可能性

立浪 康晴

医療法人社団 星陵会 たちなみ歯科口腔外科クリニック 理事長



抄 録

私が本年6月まで委員長を務めた日本歯科医学会の新歯科医療提供検討委員会は5月30日付けで最終答申「これからの歯科医療提供体制の新機軸として期待される地域支援型多機能歯科診療所（医療機関）」を提出した。我が国では、少子高齢化に伴う超高齢社会、労働力不足などをはじめとする社会全体の課題が今後より厳しい状況を迎えることが想定される中、歯科界においても歯科医師の高齢化・地域偏在、団塊世代の歯科医師の引退、歯科診療所の後継者不足、女性歯科医師・専門医の活躍の場の整備などが大きな課題として挙げられている。また、かかりつけ診療所においては、加速的に高齢化が進むことに伴う認知症・有病者や介護需要の増加（2040年には高齢者の4人に1人は認知症と予測されている）をはじめ、これまで以上に多種多様で更には専門性も要求される対応に迫られることが予想される。

答申にて提唱されたかかりつけ診療所と連携してその後方支援的な役割を担う、多機能を有する「地域支援型多機能歯科診療所」は複数の専門医を有し、地方都市でも多職種協働の専門性の高い医療が提供可能となり、歯科医療の地域格差を是正することにつながる。障がい者歯科、有病者歯科、認知症患者へ対応が可能となり、専門性の高い歯科治療を全国で提供可能とすることを目標としている。

今回、「地域支援型多機能歯科診療所構想」をご紹介します、専門性を有する認定歯科衛生士の活躍の可能性について考察したい。

学 歴

- 1994年 東北大学 歯学部 卒業
- 1998年 東北大学大学院 歯学研究科 博士課程 修了（歯科麻酔学専攻）
- 2004年 富山医科薬科大学（現 富山大学）医学部 大学院（口腔外科学専攻）

職 歴

- 1998年 東北大学歯学部附属病院 歯科麻酔科 勤務
- 1999年 国立仙台病院（現・仙台医療センター）口腔外科 勤務（麻酔科兼務）
- 2004年 立浪歯科医院 継承
たちなみ歯科口腔外科クリニック 開院

2005年～ 東北大学 講師（非常勤）（歯科麻酔学）
2020年～ 東北大学 臨床教授
2023年 スマイルデザイン歯科クリニック呉羽 開院

資格

博士(歯学) 東北大学大学院
日本歯科麻酔学会 歯科麻酔専門医 認定医
日本障害者歯科学会 認定医指導医 専門医 認定医

学会活動

日本歯科医学会 新歯科医療提供検討委員会 委員長(2021～2023)
日本歯科麻酔学会 理事 代議員
認定衛生士審査委員会 委員長
登録医審査委員会 委員長
日本障害者歯科学会 代議員
日本口腔インプラント学会 代議員
日本顎顔面インプラント学会 運営審議委員
北信越障害者歯科臨床研究会 幹事